

“いのち”より“もうけ”最優先の 病院「改革」には反対です

京都市は、「病院事業改革プラン」の中で、京都市立病院と京北病院を市から切り離して「地方独立行政法人」にしようとしています。

ねらいは、“いのち”より“もうけ”最優先の病院づくりです。大阪の松原市立病院の閉院をはじめ全国で自治体病院の存立が危ぶまれる中、市民へのしわ寄せと地域医療に対する市の責任の後退が危惧されています。

地域医療を充実させ、京都市の責任で市民のいのちと健康をしっかりと守るためにも、京都市立病院と京北病院を京都市直営のまま存続させる必要があります。

地方独立行政法人化で 病院は…!



市職労病院支部は「公的医療の充実と市立病院を直営のまま存続させることを求める要請署名」に取り組んでいます。

詳しくは市職労病院支部まで。TEL. 315-2131
<http://www.hp-shiritu.com/>

これ以上の負担増は限界 京都市はくらし・雇用・営業を守れ!



いま、市民生活はまさに非常事態。こんな時こそ自治体が市民のいのちと生活をまもる「防波堤」としての役割を發揮しなければなりません。

ところが京都市は、大型開発にメスを入れず、市の財政危機を市民負担増で乗り切ろうとする「京都未来まちづくりプラン」を発表しました。派遣切りや倒産が相次ぎ、生活への不安が拡大するにもかかわらず、一年前に作られた市長マニフェスト124項目を「すべて盛り込む」ことを最優先した、市民の生活をかえりみないプランです。

これを受けて2月に発表された09年度予算案でも、完成後の維持費が年18億円もかかるとされる焼却灰溶融炉建設などをそのまま進める一方で、負担を市民に押し付け、雇用が大変なときに十分な手立ても打っていません。

未曾有の経済危機のもと、不要・不急な事業を見直し、市民生活をしっかりと守ることを第一に据えた市政運営——当たり前の自治体の役割發揮が求められています。

09 予算案は値上げ・負担増がめじろ押し

- 国民健康保険料の値上げ
- 小・中学校などの給食費の値上げ
- 学童クラブをはじめとする利用料・使用料23項目を値上げ
- 民営保育所への補助金を削減
- 市立病院への運営補助金削減
- 4年間で職員1300人削減

雇用

くらし

労働

一人で悩まないで
ご相談ください

相談
無料



京都ヒューマンユニオンセンター

京都市中京区壬生仙念町30番地の2 ラポール京都5階
FAX. 075-813-2048



携帯もOK



なんでも相談
取りつき先

075-813-2028

—プライバシーは必ず守ります—